

学校におけるおもな感染症の対応

	潜伏期間	感染経路	出席停止基準
インフルエンザ	平均 2 日	飛沫感染 接触感染	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 2 日を経過するまで
百日咳	7~10 日	飛沫感染 接触感染	特有の咳が消失するまで。又は 5 日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	16~18 日	飛沫感染 接触感染	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
風 疹	16~18 日	飛沫感染 接触感染	発疹が消失するまで
麻 疹	8~12 日	空気感染 飛沫感染	発疹に伴う発熱が解熱した後 3 日を経過するまで。但し病状により感染力が強いと認められた時はさらに延長
水 痘 (みずぼうそう)	14~16 日	空気感染 接触感染	すべての発疹がかさぶたになるまで
咽頭結膜熱	2~14 日	飛沫感染 接触感染 プール水 からも感染	発熱・咽頭炎・結膜炎などの主要症状が消失した後 2 日を経過するまで
流行性角結膜炎	2~14 日		症状により医師が感染の恐れがないと認めるまで
急性出血性結膜炎	1~3 日		(このウイルスは便中に 1 ヶ月程排出されるので手洗いを励行すること)
溶連菌感染症	2~5 日	飛沫感染 接触感染	適正な抗菌剤治療開始後 24 時間を経て全身状態が良ければ登校可能
マイコプラズマ 感染症	2~3 週間	飛沫感染	急性期は出席停止、全身状態が良ければ登校可能
感染性胃腸炎	12 ~ 48 時間	飛沫感染 接触感染 経口感染	下痢・嘔吐症状が軽快し、全身状態が改善されれば登校可能